

道の駅かなん

- なにわの伝統野菜などの地場産野菜を商品開発(6次産業化)して提供する施設の整備や直売所リニューアルにより、地方創生の拠点として、町の特産品を全面的にアピールし、地産地消の促進と雇用の創出
- 情報発信拠点を整備し、町の観光情報や交通情報を総合的に発信
- 災害時避難所に指定されていることから、防災倉庫や災害時に一時避難が可能な広場の整備

産業振興 特産品のアピール、地域農業の拠点	交流・連携 加工体験や産学連携での商品開発による地域活性化	観光総合窓口 観光振興拠点	防災 災害時避難所の備蓄機能
---------------------------------	---	-------------------------	--------------------------

位置図

大阪市内から25km圏内に位置しており、都市から積極的に来場者を呼び込むことができる。

現在の道の駅かなん

25km

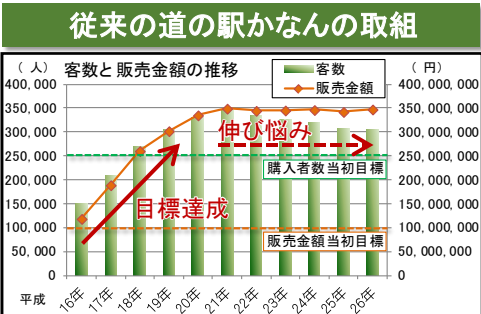
国道309号

道の駅かなん

河南町

図出典国土地理院 地理院地図を加工

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
かなん	大阪府	河南町	国道309号	既設	平成16年度	一体型



↓ 来場者数増加へ ↓ 規模・設備の充実

直売所

直売所

駐車場・トイレ

駐車場

地域農業の拠点として屋内にリニューアル

駐車場規模の拡大・トイレなど設備の充実

新規コンテンツによる魅力づくりで周囲と差別化を図る取組

スイーツ工房

いちじく イメージ

特産品の果物を活用したスイーツの商品開発・加工体験

なにかの伝統野菜

商品開発例(弁当)

作付面積大阪府1位の「なにかの伝統野菜」を活用した商品開発

カフェ・デリ

今朝どりの地場産野菜をふんだんに使用した料理を提供

インフォメーションセンター

西行法師終焉の地 弘川寺

町の総合的な観光・交通情報などを発信

<提案の先駆性・ポイント>

- 特産品(いちじくやなにかの伝統野菜)を前面に押し出した商品を開発し、加工体験や産学連携など交流の手段とすることで、地方創生に資する地域のアピールと活性化を推進する。
- 地場産のこだわり野菜をおいしく食べてもらうために今朝どり野菜をふんだんに使用した料理を味わってもらう場を設置し、地産地消を促進する。
- 観光情報提供や自転車のレンタルにより総合的に観光案内を行う。

<実施内容>

- 産学連携により特産品をオリジナルスイーツ等に商品開発【産業振興】
- 上記を購入・加工体験できる「スイーツ工房」や今朝どり野菜を食べることができる「カフェ・デリ」を整備【産業振興、交流・連携】
- 観光案内を行う「インフォメーションセンター」設置【観光総合窓口】
- 防災倉庫や災害時に使用できる広場の整備【防災】
- 規模拡大に合わせた駐車場やトイレの充実